

令和 7（2025）年 蘇遙会運営委員会議事録

- 日時 令和 7 年 6 月 13 日（金）16：30～18：10
- 場所 熊本大学工学部 1 号館 3 階 328（土木教室会議室）
- 出席者

蘇遙会会長	山尾 敏孝（S49 卒）
運営委員長	佐藤 晃
東京支部（継続）	坂西 由弘（H18 卒）
大阪支部（新任）	野中 久翁（H3 卒）
福岡支部（新任）	森 大輔（H7 卒）
大分支部（代理）	前野 保一（H13 卒）
宮崎支部（新任）	河野 翔平（H28 卒）
熊本支部（新任）	岩坪 要（H6 卒）
監 事（教室）	柿本 竜治（S63 卒）
教室 2 年担任	吉城 秀治
令和 7 年度学生部	平緒 優貴、杉本 泰晟 児玉 暁
令和 6 年度学生部	前田 明日香、高木 駿介
事務局	藤内 英子

《報告、討議事項および決定事項》

1 令和 6 年度事業報告および決算報告

1) 令和 6 年度事業報告

- ・ 事務局より、資料に基づいて、主な事業内容（運営委員会の開催、情報誌およびデータカードの発送、会費の徴収、ホームページの更新など）の説明があった。
- 今回は寄付が多いようだが、何か PR をしたのか？（佐藤）
 - いつも通り情報誌などをお願いしていただけだったが、お一人から 10 万円の寄付をいただいたのと、同期会の繰越金を管理していた通帳を年齢が上がってきたため解約するので、残金を寄付したいという申出があったため。これについては、情報誌に掲載する予定。（藤内）
- 学生会費の 110 件という数字は？（岩坪）
 - 件数は納入した人数。[補足：会計処理の都合や徴収方法により、年度によって件数のばらつきがある。]
1 年生は土木建築学科として入学しており、2 年生から土木と建築の分野に分かれるため、学生会費は 2 年生より(大学院まで)1 年分 1,000 円として在学年数分を徴収している。（藤内）
- 会員本人によるインターネットでのデータ修正のべ数が 80 となっているが、その年代はわかるのか？データカードの回収率のほうが高いようだが、データカードの印刷費が経費

を圧迫しているようなら、どの年代がホームページを見ているのかがわかれば、経費削減の方法が見つかるかもしれない。(坂西)

→ 次回は、その年代を調べておくようにする。(藤内)

2) 令和 6 年度会計報告および監査報告

- ・ 事務局より、資料に基づいて、会計報告が行われた。

次期繰越金は、1,492,318 円、当期収支の差額は、- 49,413 円となった。

■ だいたい例年通り 150 万円ぐらいの繰越金なのか？(岩坪)

→ ここ数年はこのぐらいの額である。(藤内)

最近では物価が高騰しているため、先々この額をどうキープしていくのかが、今後の話しになってくると思うので確認した。(岩坪)

3) 学生部活動報告

- ・ 令和 6 年度学生部より、資料に基づいて、活動報告があった。

出前講義では、その場ではなかなか学生からの質問が出にくいので、事前に Google フォームを使って匿名で質問を募った。お陰で色々な質問が寄せられ、学生が本当に知りたいことが聞けてよかったとの報告があった。

今の土木建築学科では、1 年生では土木系、建築系のプログラムで分けておらず、一緒に講義を受け、2 年生になるときにプログラム分けをするため、1 年生はどちらにするか迷っている学生が多い。そのような中、このような新歓 BBQ や研修旅行を行うことで、土木系もいいと思わせる影響が少なからずあると学生から聞いている。ほぼ、8 割 9 割が建築希望で入学してくる中、教員の立場としてもとてもいい活動であると感じている。出前講義についても、先輩方から進路後の話しを聞く貴重な機会である。(佐藤)

4) 学生部決算報告

- ・ 令和 6 年度学生部より、資料に基づいて、会計報告が行われた。

■ 未実施のところがいくつかあるが、どういう理由で未実施になったのか。(坂西)

→ 活動費用合計を 30 万円に抑えようとしたため。親睦遠足に関しては、研修旅行などが未実施になった際の代案だったため。(高木)

色々やるが多すぎて出来なかったのであれば、年度計画を考え直したほうがよいと思ったので聞いた。(坂西)

研修旅行の経費が多くかかってしまったのは、参加人数が予定より多かったということで、蘇遙会の活動に理解を示してくれている嬉しい悲鳴なので、そんな時は赤を出しても是非他の活動も開催してほしいという意見が学内委員会であった。(佐藤)

■ だいたい 1 回の活動で 50 人ぐらい集まるのか？学年の内訳は？(岩坪)

→ 新歓 BBQ が一番多い 50 人ではあるが、出前講義も 50 人だった。新歓 BBQ は半分が 1 年生で、出前講義は 3 年生が多かった。(高木)

各学年からそれぞれ少しでも参加してもらう形が理想であり、50 人ぐらいがちょうど盛り上がるいい人数なのではないかと思った。(岩坪)

2 令和7年度事業計画および予算案

1) 令和7年度事業計画

- ・ 事務局が、資料の通り、例年と同じ事業計画を進めていく予定。
 - 只今、今年度の情報誌に掲載する寄稿依頼をしているが、なかなか返事がないため、どなたか紹介していただきたい。(藤内)
 - 支部活動を長めに書いてもらうのはどうか。(山尾)
今いる教員の研究室の卒業生であれば、先生方に依頼をお願いする方法もある。(佐藤)
依頼の仕方としては、卒業年を設定してやっているのか？(岩坪)
今年はS49年卒、S59年卒、H6年卒、H16年卒、H26年卒、R5年卒から各5名ずつ依頼。返事がないければ、さらに追加で依頼している。(藤内)
学生からこんな話しが聞きたいとかこんな分野の話しが聞きたいという要望を聞いて、寄稿願いをするのもいいと思う。(岩坪)

2) 令和7年度予算案

- ・ 事務局より、資料に基づいて、予算案の説明があった。
昨年度との違いとしては、郵便料金などの値上がりにより通信費を多く計上したところ。
収支の差額は、-208,400円となるが、なるべくマイナスが大きくならないことを望む。
 - 学生部の活動費はこのまま30万円でよいのか？希望するのであれば、今だと思うが。(岩坪)
 - 希望としてはもっと出してほしいが…。(高木)
出来るかどうかは置いておいて、アピールすることは必要。(岩坪)
新たにやりたいことなどがあれば、資料を準備してお願いすることもできるので、来年度検討してみてはどうか。(佐藤)
ちなみに、最初に30万円くださいと言ったのは、私達だった。ちゃんとした組織づくりをすることになった時に、運営委員会で申し出て決まった。(坂西)
 - 予算案なので、収入のその他の収益に82円を入れて、切りのいい数字にしてはどうか。(山尾)
 - 承知しました。(藤内)
 - 今年、土木学会が熊本であるので、卒業生が多く集まると思うが、蘇遙会として何かないのか？(坂西)
 - 今のところ何も動きはないが、椋木先生と相談する。(吉城)

3) 学生部活動計画

- ・ 令和7年度学生部より、資料に基づいて、活動計画の説明があった。
活動計画は、基本の通り実施する予定。

4) 学生部予算案

- ・ 令和6年度学生部より、資料に基づいて、予算案の説明があった。
昨年度と異なる点は、紫熊祭準備金を蘇遙会の会計から借りて、売り上げから戻すためその項目を追加したところ。

- 工学部運動会は、今年はどうなるのか？（佐藤）
- まだ何も決まっていないが、今年はあるかもしれない。（柿本）
工学部運動会の項目は、ここに入れないほうがいいのか。入れるとすれば、運営費外の紫熊祭と同じところがよいのでは。（山尾）
工学部運動会の開催費用は、どこから出るのか？（坂西）
学生支援からなので、大学というより工業会から出ていることになる。（柿本）
- 1年生進路相談会、球技大会など項目を挙げて計画するのであれば、金額を入れておいたほうがよい。親睦遠足については、備考欄に研修旅行未実施の際の代替案と記載しておくとい。（山尾）
- お花見は、既に実施済みになっていて、金額が昨年度よりだいぶ減っているがどうか？（岩坪）
- 天候が悪くなり、参加者が減ったため。（平緒）
備考欄に、参加者減のためと記載しておくとい。（佐藤）

令和7年度 事業計画・予算案、学生部活動計画・予算案が、承認されたことを確認する。

3 その他

1) 蘇遙会会員名簿原簿利用規定について

- ・ 同窓会システムでは、情報の公開は項目ごとに、「全卒業生に公開」・「同期生のみ公開」・「公開しない」が選択でき、新卒者の初期設定は「同期生のみ公開」になっている。web上で会員個人が他の会員を検索する際は、その公開範囲にしたがって閲覧ができるようになっている。問題点は、支部などで同窓会や会合などを開くときに名簿がないと案内を出せないため、公開の範囲を絞っていると幹事の方が同期生でないときは情報を得ることが出来ないということ。よって、それを回避するために、規定の3.2)には「公開の許可されている範囲」を明記し、3.6)には、それを記載せず、幹事登録をされた方には、同期生でなくとも公開の許可されている情報を提供出来るという案に了承していただきたい。
- 提供された名簿を利用して開いた会合については、寄稿してもらうようにすれば、情報誌の寄稿が少ないという問題にとってもよいのではないか。（坂西）
- とてもいい案だと思うので、ホームページの名簿利用案内にそのことを記載したいと思う。（藤内）

以上の内容で規定を改定し、本日より施行することを確認する。

4 東京支部より

- ・ 持参いただいた資料を基に、主に出前講義、支部間連携について提案があった。
出前講義については、通常の講義の中に入れられないか？（そうすると学生の参加率も増える。）など、教室との連携を強化すること。また、就職活動時期とのミスマッチを解消するため開催時期も検討する必要があるなど。
支部間連携については、まず同窓会がどういう組織であることがみんなに嬉しいことが起こ

るのかということを模索するところからで、各代表者でのオンラインミーティング実施を提案。

- 支部間連携は、インターンシップや出前講義も東京だけでなく他の支部と連携していくことを視野に入れて進めていけばいいと思う。(山尾)